

2009年11月18日

日本現象学・社会科学会報 第79号

日本現象学・社会科学会 事務局
〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4-2
群馬大学社会情報学部
砂川(比較文化基礎論)研究室内
Tel/Fax: 027-220-7437(直通)
E-mail: info@jspss.org
http://www.jspss.org/

1. 第26回年次大会(2009年度)について

2009年度年次大会(第26回)を、来る2009年12月5(土)、6(日)の両日にわたり、青山治城会員を世話人として神田外語大学において開催いたします。会員各位をはじめ、多数の皆様のご参加をお願い申し上げます。

【会場のご案内】

神田外語大学(<http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/>)

所在地: 〒261-0014 千葉県千葉市美浜区若葉1-4-1(TEL 043-273-1322)

交通: [アクセスMAP](#) / [PDF版\(378KB\)](#)

バス乗り場案内([海浜幕張駅\(北口3番乗り場\)](#)、[幕張本郷駅\(南口6番乗り場\)](#))

大会会場: 7号館(7-206(ホール))

委員会室等: 7号館(7-204、205)

【会場近辺のホテルのご案内】(http://www.hyperhotelmap.com/14/univ_7342.html)

JR 京葉線海浜幕張駅周辺、JR 総武線幕張本郷駅周辺にいくつかホテルがあります。

* 一般報告でご報告の皆様へ

配布資料は40部程度、各自でご用意頂きますようお願い致します。

2. ワークショップ「ケアの哲学」及びシンポジウム「臓器移植と死」について

【ワークショップ「ケアの哲学」】

第一日目に開催されるワークショップでは、哲学、社会科学双方から注目を集める「ケア」概念の意義と射程を考察する。

ケア概念の哲学的受容において大きな役割を果たしたベナーの看護論が、主にハイデガーの哲学に依拠していることもあって、ケアはすでに現象学のなかでも繰り返し論じられてきている。ケアは、本質的に自己完結的な行為ではあり得ず、他者のニーズに聞き応じることを含むため、ケアの概念を通じて、他者の存在、他者との出会いという局面が照らし出されてきた。従来より、客観的記述の三人称的視点ではなく私の一人称的視点から出発しようとする現象学にとって、他者の存在を問うる視座の確保は重大な課題であり、またこの課

題こそを社会科学と共有してきたが、ケアはこうした焦点を私と他者の相互行為のなかであらためて浮き彫りにしうる鍵概念と言える。

加えて注目されるのは、ケア概念に依拠して、行為の他者志向的性格や、語り、ナラティブといった現象を思考する傾向が、現象学だけでなく分析哲学の中でも強くなってきていることである。ケア、他者、ナラティブといった概念系において、現象学、分析哲学、社会科学の相互対話の可能性が開かれていると言ってよいだろう。

今回はこうした趣旨のもと、提題者として、早川正祐(東京大学)、崎川修(上智大学)、浜渦辰二(大阪大学)の三氏をお迎えし、現象学の枠にとらわれることなく、分析哲学、ナラティブ研究の視点を踏まえて、ケアと他者、語り、身体性などの連関について議論していただく。

分析系行為論の研究者である早川氏には、ケアや語りを軸として捉えられる他者志向型の行為者概念が、従来の行為論にとっていかなる意義をもちうるかについて、崎川氏には、日常語としての「ケア」の用法からひらかれる実践の地平の多義性と、従来の「ケアリング」の視点にはらまれる他者の隠蔽、ケアリングの限界を補完するものとしての「語り」の可能性について論じていただく。また、現象学とケアの人間学に長年携わってこられた浜渦氏には、ケア論におけるナラティブの重要性とともに、言語的な語りではないパースペクティブ的な身体の次元、そこですでに働いている構成への着眼の必要性について議論していただく。

【シンポジウム「臓器移植と死」】

「臓器移植と死」

大会シンポジウムでは、「臓器移植」を題材に哲学と社会科学の相互的な議論を目指し、議論する。

2009年7月に臓器移植法が改正され、いわゆる「A案」が成立したことは記憶に新しい。2010年の施行を目前に控えて省令やガイドライン作りが進められる中、これまで臓器移植や脳死に強い関心を抱いてきた法学・社会学・哲学からの検討や提言がますます重要性を増しているところである。

臓器移植をめぐるのは、「死」が再定義されるとともに、「死体」や「意思」の概念が前景に現れることで、生／死、身体／精神という古来より続く人間理解の根底が直接的に揺さぶられている。そこで、臓器移植「法」の是非を考える時には、「死」の現場に臨む患者・家族・医師などの社会的関係や、生死・心身に関する基礎的な哲学的理解を深めることが不可欠になるだろう。この点に、「臓器移植」を題材にして、哲学と社会科学が相互討議する機会を設けることの必然性と意味があると考えられる。

提題は、臓器移植、生殖補助医療、また子どもの医療における意志決定などの問題について、基礎法学の見地から議論をされてこられた横野恵氏(早稲田大学)、バイオエシックス(生命倫理)とその社会を相対化して捉える「生命倫理の社会学」の可能性を、具体的事例にもとづいて研究してこられた皆吉淳平氏(芝浦工業大学)、フッサール現象学や西田哲学に造詣が深く、臓器移植についても現象学・哲学の立場から発言されてこられた田口茂氏(山形大学)のお三方にお願いする。

20世紀以降の哲学において、「生」や「自然と精神」の探究を続けたフッサール以来、現象学ほど、生／死や身体／精神の問題系に果敢に取り組んできた学派も珍しい。臓器移植問題が呈する喫緊の法的・倫理的・哲学的諸課題を前に、現象学、そして現象学以後の哲学は社会科学とどう連携しうるのか。タイムリーな論題をめぐって、活発な議論がなされることを期待している。

3. 今期役員について

昨年の総会において承認された方々のうち、ご本人の意向を再確認した結果、辞退された方を除いて、今期(2008年12月～2011年12月)の委員は次の方々決定いたしました。また、幹事(企画委員)として次の方々を委嘱いたしました。

(五十音順、敬称略)

委員

青山 治城(神田外語大学)	砂川 裕一(群馬大学)
魚住 洋一(京都市立芸術大学)	直江 清隆(東北大学)
宇都宮京子(東洋大学)	中村 文哉(山口県立大学)
奥田 和彦(フェリス女学院大学)	那須 壽(早稲田大学)
嘉指 信雄(神戸大学)	浜渦 辰二(大阪大学)
片桐 雅隆(千葉大学)	福永 俊哉(京都女子大学)
神谷 英二(福岡県立大学)	丸山 徳次(龍谷大学)
草柳 千早(早稲田大学)	水谷 雅彦(京都大学)
佐藤 康邦(放送大学)	村田 純一(東京大学)
杉田 正樹(関東学院大学)	矢田部圭介(武蔵大学)
周藤 真也(早稲田大学)	鷲田 清一(大阪大学)

幹事(企画委員)

池田 喬(日本学術振興会)	木村 正人(早稲田大学)
河野 憲一(東洋大学)	清家 竜介(早稲田大学)

監事

石田かおり(駒沢女子大学)	工藤 浩(前橋工科大学)
---------------	--------------

4. 会費納入のお願い

今年度会費の納入がまだの方は納入をお願いいたします。前回の会報78号をお送りした際に払込用紙を同封させていただきましたので、郵便振替にてご納入いただきますよう、お願いいたします。

年会費は、一般会員 2,000 円、学生会員 1,000 円となっております。

郵便振替口座: 00920-2-56364 (加入者名: 日本現象学・社会科学会)

以上

日本現象学・社会科学会 第26回大会プログラム

会場:神田外語大学 7号館(7-206(クリスタルホール))

【第1日:12月5日(土)】

13:00 受付開始

13:30~15:00 一般報告1

司会:木村 正人(早稲田大学)

13:30~14:15 「監視のまなざしのスペクタクル化と脱スペクタクル化」

本柳 亨(早稲田大学)

14:15~15:00 「コミュニティ形成と主体化との関わりについて——社会的交換理論から見た個人と社会」

清家 竜介(早稲田大学)

15:00~15:15 休憩

15:15~18:15 ワークショップ「ケアの哲学」

司会: 周藤 真也(早稲田大学)・池田 喬(日本学術振興会)

ケアと他者経験——言語ゲームから(語りの知)へ

崎川 修(上智大学)

ケアの倫理からケアの行為者理論へ——他者にケアする行為者

早川 正祐(東京大学)

ケアの現象学のために——ナラティブとパースペクティブ

浜渦 辰二(大阪大学)

18:30~ 懇親会(会場:未定(キャンパス内), 会費:4,000円)

【第2日:12月6日(日)】

10:10 受付開始

10:30~12:00 一般報告2

司会:櫻井 龍彦(浜松学院大学)

10:30~11:15 「『引きこもり』における『参加』の困難——E・ゴフマンの視点から」

関水 徹平(早稲田大学)

11:15~12:00 「相互作用と身体の現前——ゴフマン相互作用論」

草柳 千早(早稲田大学)

12:00~13:30 委員会(7号館(7-204))

13:30~14:00 総会(7号館(7-206(クリスタルホール)))

14:00~17:00 シンポジウム「臓器移植と死」

司会:青山 治城(神田外語大学)・神谷 英二(福岡県立大学)

法は「脳死」にどう接したか

横野 恵(早稲田大学)

死をめぐる尺度——臓器移植問題をめぐって

田口 茂(山形大学)

「脳死」問題の歴史的現在と(メタ)バイオエシックス

——「2009年 臓器移植法改正」における身体と社会

皆吉 淳平(芝浦工業大学)